

日 付 令和 6年 3月 12日
担当所属 山梨県 教育庁 生涯学習課
課 長 平賀 貴久子

～写真と共に記憶を綴る！ふるさとに寄せる先人たちのストーリー～
「山梨ふるさと記憶遺産」北杜市編、富士河口湖町編の刊行について

1 目 的

県内の各地域固有の歴史や文化、人々の体験など、地域を形成してきた先人達の記憶や物語を、図書館が核となって記録・収集し、保存し活用していく「山梨ふるさと記憶遺産プロジェクト」を令和4年度より実施しています。

このプロジェクトは、口伝で伝わるものも含めた県内の各地域固有の歴史や有形・無形の文化、あるいは人々の体験、いわば県内各地域それぞれの記憶をしっかりと後世に引き継ぎ、活用していくことを目的とした取り組みです。

2 モデル自治体とテーマ

○北杜市

テーマ「名水の里と開拓の歴史」

○富士河口湖町

テーマ「観光地に導いた産業の変遷」

3 仕 様

仕 様：32 ページ（ハードカバー表紙 4 ページ+本文 28 ページ）

オールカラー A4 判

発 行：山梨県教育委員会

取材協力：北杜市、富士河口湖町

4 その他

冊子は、3月中旬より随時、県立図書館及び県内の各市町村立図書館（図書館が複数ある市町村は、中央館・中心館のみ）にて、閲覧可能です。（各図書館にお問い合わせください）

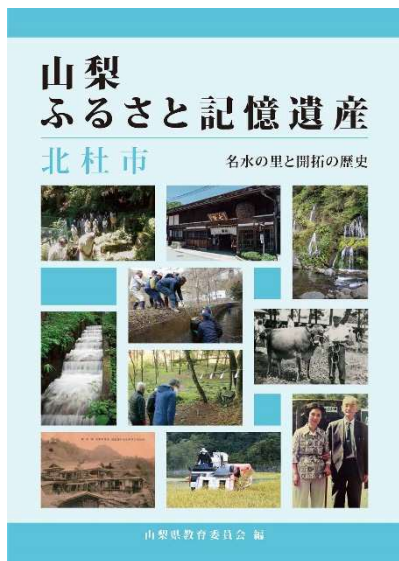
※モデル自治体である北杜市と富士河口湖町については、すべての図書館とすべての小中学校の学校図書館に所蔵。

問い合わせ先

山梨県教育庁 生涯学習課 成人・家庭教育担当 主幹 辻 由樹（内線 8362）

TEL 055-223-1772

山梨ふるさと記憶遺産 北杜市



テーマ「名水の里と開拓の歴史」

(湧水)

- ・水量、水質と由来を独自調査 八ヶ岳南麓高原湧水
- ・2地区に水利権 争いと協調紡ぐ 大泉大湧水
- ・「井詰」「平井出」など5湧水で“水利権” 小淵沢町宮久保区(堰)

(堰)

- ・山腹を迂回、溪谷を渡り水路網 村山六ヶ村堰

(開拓)

- ・開拓史と「水」の役割をたどる 清里・朝日ヶ丘
- ・「貧困こそ発展への原動力」 “清里開拓の父” 安池興男

(温泉)

- ・傷病兵を癒やした“信玄の隠し湯” 増富ラジウム温泉 津金楼

(日本酒)

- ・「白州の水を体現する酒」を追求して 300年 山梨銘醸株式会社

(米)

- ・原種栽培に切り替えブランド確立 「幻の米・農林48号」

記事例 (一部抜粋)

2地区に水利権 争いと協調紡ぐ

大泉大湧水 水源は養殖研究の大学へ寄付

元谷戸組組長 谷戸俊彦さん、元西井出組組長 千野憲治さん

旧大泉村(現北杜市大泉町)の前身、旧谷戸村と旧西井出村の境に「大泉大湧水」がある。江戸期から2村が共同管理した水源は、1875(明治8)年に2村が合併した「旧大泉村」へ移管。1933(昭和8)年、同村は水利権を持ったまま、水源を農林省(現農林水産省)へ寄付、ニジマスの養殖場が新設された。1950(昭和25)年、東京水産大学(現東京海洋大学)がこれを引き継ぎ今に至る。水争いと協調の歴史を、元谷戸組組長の谷戸俊彦さん(94)、元西井出組組長の千野憲治さん(77)に伺った。



谷戸俊彦さん 千野憲治さん



水神祭りで祈願する西井出組(前編撮影)

一大湧水の由来を教えてください。
千野: 谷戸・西井出は主峰・赤岳を擁する八ヶ岳南麓の北麓に広がる地域で、「大湧水」の谷戸、東が西井出地区です。水源は長らく両地区の共同管理でしたが、国(旧農林省)へ寄付後は水利権だけが残りまし

た。湧水の利用目的は、江戸時代から、一部の生活用水を除き、河川の水も併せ、農業用の灌漑でした。両地区には湧水の近くそれぞれ「泉神社」があり、水神様が祀られています。谷戸: 谷戸の文獻によると、江戸時代の谷戸村、西井出村の前身は、「谷戸



谷戸村と西井出村の水神祭(運動・いずみさん)

り立憲(2月4日)から88日目で補作シーズンが始まる「八十八夜」の5月2〜3日に行われます。西井出は7月が時期が滞り理由は不明です。一大湧水の水は谷戸、西井出にどう配分されたのですか?
千野: 東京海洋大学の敷地内にある「大湧水」の水は、その南の養殖会社を回り、水廊からおおむね300mで、谷戸と西井出に分水されています。水量は両方とも等分、水路は下流へ向かいながらさらに分岐します。谷戸: 灌漑用に使っている水として



谷戸村と西井出村の分水地点

河川の水を含めると、谷戸の水量は圧倒的に多い。西の端から「鳩川」「山田川」「西井出」に繋がります。千野: 西井出の主な河川は、油川、甲川、泉川、井野川、細田川です。

上流の取水止め下流を潤す

一湧水の上流と下流の配分を伺います。
千野: 谷戸・西井出組にはそれぞれ「節水」という仕組みがありました。水が豊富な上流域が取水口を閉じ、西井出では下井出など水が足りない下流域に水を流します。組員が組長に節水を申し入れ、両組で「節水」の実施を協議します。日取りが決まれば、組長は組員を招集し、「〜日に上から水がくるから取水してください」と御馳れを出しました。

谷戸: 谷戸の方が西井出より水量が多かったため両組で話し合い、たとえば、谷戸の取水を2日止めその水を西井出に回し、下井出まで引きまわす。田植え時期の春先に2日ぐらいうちやうで、以後は取極まで、水が不足した時には随時、両組協議の上、1日だけ流すというようなことを何度もやりまわす。節水は上流と下流が協議する「共同」の取り組みでした。一週に水の取り合いはあったのでしょうか。

千野: 西井出の郷土誌には、「古文書によると、幾多の争論の繰り返しの裁判が明治時代まで続いてきた」と書かれています。西井出の下流域は昔から水が少なく、私の知る限りでも、夜中に地区内で水を奪い合い、殴り合いが起きていました。昭和20年代後半から30年代です。やがて下井出などでは、水への悪い水田は畑になっていきました。

谷戸: 谷戸は大湧水に加え、河川の水が多いことから、昔も今も圧倒的に水田が多いです。ただ、中には水が少ない地区もあって、「西井出に回す水を減らして谷戸に引張ってこよう」ということでもありました。昔は西井出に取られる水を止めるに行く、といったことは普通にあつたように思います。一水が取られないように監視する「水番」のこともありました。谷戸: はい。ひそかに堰を作られ水を取られないように、谷戸と西井出に湧水が公平に流れるように、ということでも、水番の担当がありました。千野: 西井出では今も水番がいます。分水路のところに集まったゴミを取り除くほか、併せて、ため池の管理もやっています。一ため池の役割とは。谷戸: 2つあります。湧水はそもそも水温が低いので、水を温めておいて水温を上げるのがひとつ。もうひとつは、貯水しておき水不足の時に使う。谷戸ではほぼ水不足の時に使う。谷戸のため池は3カ所です。千野: 西井出も谷戸と同じ目的です。水の放出は、複数の排水口に高低差をつけ、上から順番に水を抜いて水量を調整します。湧水に加え雨水も貯めます。西井出は5カ所です。



泉沢ため池 周囲には遊歩道も

研究用養殖場、地域貢献少なく

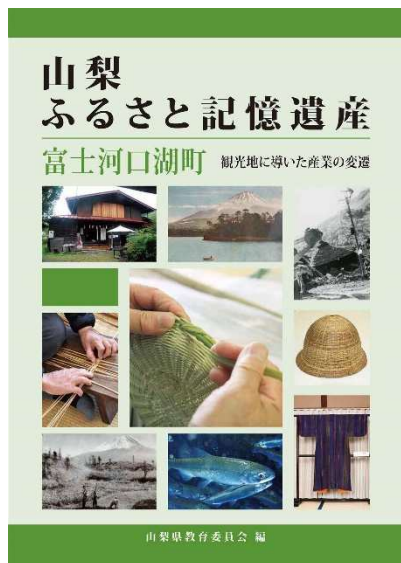
—1875(明治8)年に旧大泉村が大湧水の水源地を当時の農林省に寄付しました。どう受け止められていますか。
千野: 西井出の郷土誌「水の恵みはにいで(大泉)の宝 後世に」(2020年2月発行)によれば、旧大泉村は「農林省水産講習所大泉実習場」(ニジマス養殖場)建設にかかわる民有地約7000坪を買上げ農林省(現農林水産省)へ寄付したということです。



東京海洋大学大泉実験ステーションの入り口

1950(昭和25)年には文部省(現文部科学省)所管となり「東京水産大学大泉実験実習場」となりましたが、周囲にフェンスが立ち、村民の購入への立ち入り禁止された自由に見学できなくなりました。郷土誌には「村民感情痛みで閉鎖がたいこと」と記されています。観光や経済への地域貢献はなく、寄付は悔やまれます。谷戸: 農林省への寄付は、道路整備を条件に行われたといえます。1973(昭和48)年、自由見学ができないことについて村議会が議題となり、大泉村は大学と交渉を繰り返しましたがはかばかならず。数年後、湧水が大堰で堰断した際、大学に「修復をできなかったら湧水の返還を求めると要請しました。半年後に修復されましたが、両組とも「大湧水は取られたようなもの。なぜ、寄付してしまったのか」との思いでした。さらに、村議会議員だった私は1985(昭和60)年、村長、村民会に働きかけ、村長と村議会議員と文部省と大学に、大湧水と周辺の一般開放を求める陳情を行いました。見学は申し込めばできる形になった一方で、この時も返還滞りままで発展したのですが、「すでに譲り受けたもの」として大学に拒否され、現在に至っています。

山梨ふるさと記憶遺産 富士河口湖町



テーマ「観光地に導いた産業の変遷」

(スズ竹細工)

- ・400年を超え農村経済を下支え
- ・紆余曲折を経て衰退へ 単価安く、副業、軍需の追い風生かせず
- ・16人の作り手が“匠の技”継承 小ぶりのザルやオガラが主流に
- ・漁場で活躍した船津の大型ザル 「御山」の恵み活用

(信仰)

- ・鎌倉街道の宿駅として「御師集落」を形成

(織物)

- ・養蚕から織りまで一貫して生産 山村地域の貴重な現金収入源に

(養殖)

- ・ヒメマスの養殖成功させ西湖の観光資源へ

(災害)

- ・台風の土石流が襲い2つの集落が壊滅 根場地区と西湖地区

(観光)

- ・精進湖から富士五湖観光を拓く 精進ホテル創業の足跡

(開拓)

- ・雨水を頼りに荒野を切り拓いた苦難の歴史 タイコン生産から酪農へ

記事例 (一部抜粋)

精進湖から富士五湖観光を拓く

英国人ホイット・ウォーズ 精進ホテル創業の足跡

龍泉寺檀家 渡邊イヨ子さん



渡邊イヨ子さん



ホイット・ウォーズさん(富士河口湖町資料)

1894(明治27)年、来日した一人の英国人が精進湖からの富士の眺望に魅せられ、富士五湖観光を切り拓いた。外国航路の船員だったハリー・スチュワート・ホイット・ウォーズさんと、翌年、湖畔に県内初の純洋式の「精進ホテル」を創業。「ジャパン・シヨージ」「東洋のスミス」として精進湖を海外へ発信し、備後化、「星野旅館」と名乗った。土族出身の妻・キミさんは、地元女性従業員に接客を教え、氏没後、経営を引き継いだ。宿泊客は外国人から日本人へ広がり、1922(大正11)年には皇太子だった昭和天皇が宿泊されたほか、俳優や作家など著名人から愛された。夫妻の話を祖母から伝え聞いた湖畔在住の渡邊イヨ子さん(82)に往時を伺った。

一祖母から聞かれたというお話を伺います。

渡邊: 自宅そばの龍泉寺という曹洞宗のお寺(本堂と庫裡が富士河口湖



ホイット・ウォーズさんとキミさんが眠る星野家の墓



星野家の墓がある境内の龍泉寺



精進湖から富士五湖観光を拓く

番気に入ったところだった」と聞きなされた。一地域とホテルはどんな関係だったのですか。渡邊: ホイット・ウォーズさんの奥様は、従業員に雇った近隣住民の女性に接客サービスをはじめ、いろいろなことを教えたのだそうです。実家の近くに住んでいた彼女たちから祖母が直接、聞いた話です。たとえば、お茶は音を立てて飲まない、おならはトイレでする——など指摘されたそうです。

紅葉の富士の樹海は絶景

一渡邊さんが初めて精進ホテルへ行ったのはいつごろですか。

渡邊: 中学に上がった1955(昭和30)年ごろです。父に連れられ、何回もホテルに遊びに行きました。すでに上野精養軒がご夫妻から経営を引き継いでおり、支配人は精進湖のためにと努力した良い方で、父と親しかったのです。初めて行ったとき私は父に「いいところだね」と言いました。特に秋の樹海から富士の樹海は、雨や紅葉した素晴らしい絶景でした。

一どんな建物でしたか。

渡邊: 外壁は白く、斜めに階段状に立つ、大きくはない純西洋風の高級ホテルでした。館内は本造で床はワックスがけしてあり、すべてテーブルと椅子だったのに驚きました。



湖に倒れ立ち上野野島子の歌碑

室内照明のランプが並び、当時のホテルの中でも別格の豪華さだったと思います。映画俳優の佐分利信さんや、歌人の上野野島子さんから著名人が泊まって、館内にはそこで詠まれた歌が飾ってありました。

地域に愛された精進ホテル

一上野精養軒時代のホテルの地域との関係は。

渡邊: ホテルは敷地や周辺の道で草取りや庭木の手入れを、地域の人を雇用して行い、道に面したりもしたりしました。また、冬などの閑散期に地域の若い人たちがホテルへ遊びに来ると、コックさんがコーヒーを入れてくれ、「美味しい」と評判でした。テレビが家にない時代なので、ボクシングや野球中継を見に行ったりもしました。

一精養軒の経営はいつまで続いたのですか。

渡邊: ホイット・ウォーズさんから引き継いだ上野精養軒はその後、平成後期まで経営したそうです。冬は水が凍るなど1年を通じた営業が難しくなったよう赤字経営となり株主が処分を決定、富士急行が買い取りを行い、経営は再開されていません。



今は閉鎖されている精進ホテル入り口と本館。ホテル建物はこの上にある



精進湖(橋本)の船屋から「精進ホテル」が見える(富士河口湖町資料)

「ソロモンさん」の愛称で親しまれた“変な外国人” 富士河口湖町 旧上九一色村 郷土誌に見るウォーズ氏

ホイット・ウォーズ氏関連の主な文献として、2009(平成21)年発行の「富士河口湖町 古の小径 集成版」(執筆: 元町文化財調査委員の庄司守男氏)と、1985(昭和60)年発行の「上九一色村誌」に次のように評述されています(以下、要約)。

古の小径によりますと、《(ホイット・ウォーズさんは)英国ロンドンの近くのカーンワムで生まれ、若くして船乗りになり、1889(明治22)年、帆船で横浜に来日、船中で外人客用ホテルの勤務などをを経て、後年、妻となる小浜出身の土族の娘、大沢キミさんと出会いました》。

そして、《(同氏は)1894(明治27)年に精進湖を訪れ、95年に精進湖畔の(宇)之崎に洋式のホテルを建設した》(上九一色村誌)。

《自然保護を訴え、村人と融和し、従業員として雇われ、ホテルは茶室したようです。また、英語を教えたり、ソロモン諸島の航海術をして、「ソロモンさん」の愛称で呼ばれ、人気のある変な外国人だった。秘境のような湖畔に、外人客ばかりの小さなリゾートを作った星野さんは、1907(明治40)年に52歳で亡くなりました》(古の小径)。

その後について、古の小径によると、《末仁人となったキミさんは4人の子供と経営を継いだ。ホテルは1936(昭和11)年、火災で焼失しました。しかし、ここで接客体験した村人は、これから始まる旅館業の先遣メンバーとして歓迎され働き始めました。2年後、上野精養軒に所有が移り、改めて再建され…》。

上九一色村誌には、《(同氏は)“世界一の精進湖”の記事を世界各国の一流新聞に投稿して宣伝したといわれる。この純洋式ホテルは、夏の間、秋の紅葉に、冬のスケートに、特にクリスマス前後まで外人客で賑わったという》《夫妻の墓は遺跡の南にあるが、県内初の洋式ホテルを作り、岳麓観光に先鞭をつけた功績は、今でも地元の人々から親しみを込めて語り継がれている》と記されています。

